
特集1 子供のきこえと言葉の発達

【巻頭言】

武田 憲 昭 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部耳鼻咽喉科学分野)

子供の言葉の獲得には、耳から得る聴覚情報が不可欠です。子供に難聴があると耳からの聴覚情報が不足し、言葉の獲得が遅れます。また、言語の獲得には臨界期があるため、難聴が早期に診断されずに療育が遅れると、言語の発達だけでなく認知や社会性なども発達が遅れます。そのため、難聴の早期の診断と早期の療育が重要です。

本シンポジウムでは、まず徳島大学病院耳鼻咽喉科で小児難聴外来を担当している小児耳鼻咽喉科専門医の千田いづみ先生に、「きこえと言葉の獲得：難聴の早期診断と早期療育の必要性」について講演していただき、小児の難聴の早期診断の重要性と徳島県の新生児聴覚スクリーニングの現状と問題点について解説していただいた。次に、同じく小児難聴外来を担当している小児耳鼻咽喉科専門医の島田亜紀先生に、「徳島大学病院小児難聴外来と徳島県の難聴児を支える連携」について講演していただき、小児難聴外来の取り組みについて、人工内耳と補聴器、その装用児を支える連携について解説していた。

さらに、徳島県立徳島聴覚支援学校の指導教諭で言語聴覚士の樋口恵子先生には、「徳島聴覚支援学校における難聴児に対する聴覚学習の取り組み」について講演していただいた。

一方、徳島県立徳島聴覚支援学校校医の宇高二良先生には、「言葉の発達と遅れ」と題して小児の言語発達と言語発達遅滞について解説していただいた。また、徳島大学病院で小児言語外来を担当している言語聴覚士の佐藤公美先生には、「徳島大学病院小児言語外来の取り組み」と題して、徳島大学小児言語外来の現状について解説していただいた。

もし「聞き返しが多い」「テレビの音が大きい」「言葉が遅い」「発音が不明瞭」などの子供のきこえや言葉の発達について気になることがあれば、決して様子を見ることなく、必ず小児の聴力検査が実施できる総合病院の耳鼻咽喉科を受診していただきたい。本シンポジウムが、難聴児の早期診断と早期療育につながれば幸いです。